

וַיְהִי כִּאֲשֶׁר הִקְרִיב לְבוֹא מִצְרַיִם וַיֹּאמֶר אֶל־שָׂרֵי אֲשֶׁתּוֹ הַגֵּה־נָא יְדַעְתִּי כִּי אִשָּׁה
יִפְתַּח־מִרְאָה אֶת־:

way|hi ka|ʔă|šer hiq|rîb lā|bôʾ miš|rā|yā|māh way|ʔō|mer ʾel-sā|ray ʾiš|tô hin|nēh-nāʾ yā|da|tî kî ʾiš|
šāh ya|pāt-mar|ʾeh ʾāt.

節の外観。アクセントの移動等による母音変化、表記法の違い等に注意。

וַיְהִי כִּאֲשֶׁר הִקְרִיב לְבוֹא מִצְרַיִם וַיֹּאמֶר אֶל־שָׂרֵי אֲשֶׁתּוֹ הַגֵּה־נָא יְדַעְתִּי כִּי אִשָּׁה

14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

: יִפְתַּח־מִרְאָה אֶת־

17 16 15

この節は、וַיְהִי 構文で始まり、1-5、6-9、10-12、13-17あるいは(10-17)の文からできている？1-5はוַיְהִי 構文になっているので過去のことが書かれている。この文には動詞類は、וַיְהִי, הִקְרִיב, לְבוֹא が考えられる。הִקְרִיב は母音からヒファイル形と、לְבוֹא はこの語の後にある מִצְרַיִם が名詞+方向辞になっていることから副詞的に修飾されている？副詞によって修飾される語は動詞類と考えられる。そして、語頭の ל があることから前置詞+不定詞の形も予測される。次の6-9でも小さな文になっている。未完了形動詞 וַיֹּאמֶר に始まり、次の前置詞句(前置詞+固有名詞) אֶל־שָׂרֵי とこの後の名詞(名詞+接尾代名詞 Sg.3m.) אֲשֶׁתּוֹ から文ができている。品詞等？から見ると、動詞・前置詞句・名詞の形になっている。8-9で שָׂרֵי אֲשֶׁתּוֹ と名詞が続いている。この2語の関係は名詞文のような形になっていて אֲשֶׁתּוֹ が שָׂרֵי を説明している？次の10-11 הַגֵּה־נָא は強調の הַגֵּה と נָא (意味：どうか)がついている。10-12が小さな文？になっているが、13 כִּי 以下のことが動詞 יְדַעְתִּי の目的語になっている？(話の筋を知っているので；^ ^A。)15-16 יִפְתַּח־מִרְאָה はマケフで繋がれてスミフトを作っている？マケフで繋がれた語は一つの語として読むのでマケフの前にある語の元の形は יִפְתַּח と考えても良い？

語の変化について

1/17 וַיְהִי way|hî

1. 12:10, 12:11, 12:14, 12:16

2. 語の外観： וַיְהִי 構文で始まっている。教科書で確認する。

3. 索引。
4. 教科書を見る。§25-4 wayhî (וַיְהִי) / wəhāyāh (וְהָיָה) 構文に『 וַיְהִי / וְהָיָה は、その後に主として「時」を表す語句や節 (אַחֲרַי / אַחֲרֵי 「～の後で」、- בָּ, - כִּי, - לְאַשֶׁר 「～の時、～した時」など) を伴い、新しい話題や出来事を導入する際の一種の定型表現を構成する。 וַיְהִי は過去の出来事の導入に、 וְהָיָה は未来の出来事の導入に用いられる。 וַיְהִי 構文の方が圧倒的に出現率が高い。なお、 וַיְהִי / וְהָיָה には対応する主語はなく (非人称的)、常にこの形で使用される。文法的には וַיְהִי / וְהָיָה が無くても意味に変わりはない。

① wayhî+時を表す語句～wayyiqtl 形=過去の出来事の導入

: וַיְהִי כְּאֲשֶׁר יִלְדָה רָחֵל אֶת-יוֹסֵף: וַיֹּאמֶר יַעֲקֹב אֶל-לְבָן: ラヘルがヨセフを出産したときのこと、ヤコブはラバンに言った。

② wəhāyāh+時を表す語句～ wəqatal 形=未来の出来事の導入

: וְהָיָה כִּי-תֵבְאוּ אֶל-הָאָרֶץ וּשְׂמַרְתֶּם אֶת-הָעֲבָרָה הַזֹּאת: あなた方がその地に行ったときには、その儀式を守らなければならない。』とある。

2/17 כְּאֲשֶׁר ka|ʔ|šer

- 12:4, 12:11
- 語の外観：接頭前置詞+関係詞のようにも見える？教科書を見ると、一語で時を表す接続詞という記載がある。
- 索引。
- 教科書を見る。 כְּאֲשֶׁר について。『§24-5<<練習>>の注 (*6) אֲשֶׁר 「 אֲשֶׁר 以下のように」 ←前置詞の כִּי + אֲשֶׁר 』があり、『§25-7<<練習>>の注 (*6) כְּאֲשֶׁר は時を表す接続詞として「～した時」』がある。
- BDB. 『 כְּאֲשֶׁר conj. according as, as, when ---1. according to that which, according as, as: a. Gn 34:12 I will give האמרו אלי כאשר according as ye shall (or may) say unto me, 2. with a casual force, in so far as, since 3. with a temporal force, when; ... וַיְהִי כאשר and it came to pass, when ... Gn 12:11, 』

3/17 הִקְרִיב hiq|rîb

- 12:11

2. 語の外観：語頭に ה、次にシュヴァ、ים で終わっている。היםים 典型的なヒフィル形の接頭辞+母音になっている。

3. 索引を見ると、hi:i- הַפְּקִיד Sg.3m. Strong Hifil Affix がある。

4. 教科書で確認する。

1. ヒフィル形について。§30-1 動詞の派生形に『⑤ הַפְּקִיד hip|ʔil hiq| tʔil』がある。また、

§30-3 派生形の意味傾向に『⑤ヒフィル形 (a)パアル形の使役: לָבַשׁ 着る→הִלְבִּישׁ 着せる、מָלַךְ 王位にある→הִמְלִיךָ 王位に付かせる、王にする。(b)自動詞の他動詞化、名詞の動詞化: נָדַל 大きくなる→הִנְדִּיל (自分を)大きくする、威張る。קָרַב 近づく→הִקְרִיב (自分を)近づける、近づく。מָטַר 雨→הִמְטִיר 雨を降らせる』がある。(c)対応のパアル形がないもの: הִשְׁלִיךְ 投げる、הִשְׁכִּים 早起きする』がある。

5. BDB. 『I. קָרַב , קָרַב vb. come near, approach ...;---Qal , Hiph.: Pf. 3 ms. הִקְרִיב Gn 12:11+,;---1. a. bring near, bring, present, c. acc. rei, ... b. of time, הִקְרִיב לָבוֹא Gn 12:11; 』

4/17 לָבוֹא lā|bôʔ

1. 12:11

2. 語の外観: 前置詞句(前置詞+何か) ?あるいは、一語(不定詞独立形? לָבוֹא)。この語の後には方向辞が付いた固有名詞がある。この語は副詞的に何かを修飾している?

3. 索引。該当するものは、o- לָבוֹא Hollow Qal Infinitive Construct がある。教科書では第一不定詞にあたる。

4. 教科書で確認する。

1. 不定詞について。§20 不定詞(1)、§20-1~§20-3、§20-11 に『パアル形の不定詞は /לָבוֹא לָבוֹא の形、音変化のあるもの等は§20-11。不定詞の主語が名詞の場合には不定詞の後に置く。不定詞+接尾代名詞は不定詞の主語又は目的語を示す。語幹は、-קָטַל qotl- (קָ はカマツ・カタン) になる。』とあり、

2. 用法については§20-4 不定詞の用法(1)に『しばしば前置詞-ל を伴い(前置詞-ל がなく

ても、意味は変わらない)、英語の to-不定詞に類似した用法がある。(a)名詞文の主語として: : לא טוב לעשות כן: そうすることはよくない。(b)動詞の目的語として: לא-ידע: מלך לְשִׁפְטָנוּ: 彼は町へ行くすべを知らなかった。(c)形容詞用法: יָרַד יְהוָה לְלֹאֹת: 我々を裁く王 (d)副詞的用法(目的、結果、手段・方法): יָרַד יְהוָה לְלֹאֹת: יָרַד יְהוָה לְלֹאֹת: 主はその塔を見るために下ってきた。(e)その他、אֵין, הֲיֵת, אֵין: יָרַד יְהוָה לְלֹאֹת: 王宮の門に入ることは禁じられていた。』等がある。

לְבוֹא について。§20-11 パアル形不定詞一覧に『⑦II-1/1 אָא (בוֹא) 来る、不定詞 בּוֹא、前置詞+ לְבוֹא 』がある。

3. BDB. 『בוֹא vb. Come in, come, go in, go---Qal ...; Inf. בּוֹא , בָּא Gn 39:16+; ;---1. come in,, sq. בָּה loc. Gn 12:11, ... 』

5/17 מִצְרַיִם miš|rā|yə|māh

1. 12:10, 12:11

6/17 וַיֹּאמֶר way|yoʾ|mer

1. 12:1, 12:7, 12:11, 12:18

7/17 אֶל- ʾel-

1. 12:1, 12:7, 12:11, 12:15

8/17 שָׂרַי śā|ray

1. 12:5, 12:11, 12:17

9/17 אִשְׁתּוֹ ʾiš|tô

1. 12:5, 12:11, 12:12, 12:20

10/17 הִנֵּה- hin|nēh-

1. 12:11, (12:19)

2. 語の外観: この語の意味は「見よ」だったと思う。理由は(;[^] ^A。ただ、動詞だったらどのようなものがあるかということ?

3. 索引。hi'e-. הִסֵּב Geminate Nifal Infinitive Construct 等があり、似たものがヒフィル形やニフアル形に多数ある。(; ^ _ ^ A。
4. 教科書を確認する。§17-7 前置詞以外の小辞（副詞など）＋接尾代名詞に『副詞など前置詞以外の小辞に付く接尾代名詞は主語を表す（主語が明示されている場合もしばしば、接尾代名詞によって主語が繰り返して示される）。以下、頻度の高い部分のみを [] 内に示す。（⇒変化表【H-4】）(a) אֵיךָ [אֵיכָּהּ (単2男) ・ אֵיךָ (単3男)] (使用例僅少) : 「どこに？」 אֵיךָ : אֵיךָ אֵלֹהֶיךָ יהוה あなたの神、主はどこにいるのか。(b) הִנֵּה [הִנְנִי/הִנְנִי (単1) ・ הִנְךָ (単2男) ・ הִנְךָ (単2女)] : הִנֵּה は聞き手の注意を促す一種の**間投詞**である。しばしば「見よ！ (behold!) 」と訳されているが、文脈に応じて多様なニュアンスがある。特に訳さない事も多い。 : הִנֵּה (i הִנֵּה אֵתְּךָ →) הִנְךָ 今あなたは身ごもっているのですよ。 אָמַר יְהוָה מֹשֶׁה מֹשֶׁה 主は言った「モーセよ、モーセよ」 : אָמַר מֹשֶׁה הִנְנִי מֹשֶׁה モーセは言った「はい、ここにいます」 (呼ばれた時の返事) 』
5. BDB. 『 הִנֵּה , once הִנֵּה : Gn 19:2, demonstr. part. lo ! behold ! ..., ---lo ! behold ! a. pointing to persons or things, ... b. introducing clauses involving predication: (a) with ref. to the past or present, it points generally to some truth either newly asserted, or newly recognized, Gn 1:29 behold ! I have given to you all herbs etc. 17:20, 27:6, 1 S 14:33 etc.; often one upon which some proposal or suggestion is to be founded, Ex 1:9 (cf. הִן Gn 11:6) 1 S 20:2, 20:5, 2 K 5:20. When the proposal is to be of the nature of an entreaty or request, הִנֵּה-נָא is often used, instead of the simple הִנֵּה Gn 12:11,』

11/17 נָא nā'

1. 12:11, 12:13
2. 教科書を確認する。§22-4 懇願の נָא に『 נָא は願望、要請の意を強める小辞で（「どうか、ぜひ」のニュアンス）、命令形及び未完了形（希求形）の後に置く。その否定は אֵל-נָא で、未完了形（希求形）の前に置く。 אֵל-נָא は命令形とは共起しないことに注意されたい。
- : זָכַרְתָּ^{<1>} נָא אֶת-הַדְּבָרִי : どうかその言葉を思い起こしてください。
- : נַעֲבֹרְהָ-נָא^{<2>} בְּאֶרֶץךָ : どうかあなたの土地を通らせてください。

:אִישׁ X אֲבָחֶרָה נָא 私に X 人の兵を選ばせてください。

:אֶל־נָא תֵעֹזֵב אֶתְנֹנוּ: どうか私たちを見捨てないで下さい。

:יְהוָה אֶל־נָא נֹאבְרָה: 主よどうか私たちが滅びることがないようにして下さい。／私たちを滅ぼさないで下さい。(נֹאבְרָה ← אָבַר 「滅びる」 ⇒§24-3)

:יִשְׁמַע־נָא אֶת דְּבָרַי עֲבָדוֹ: どうか(主が)僕(しもべ)の言葉を聞いてくださるように。

〈1〉 נָא (־)の前ではしばしば、動詞の語幹母音が変化する。(⇒§4-2、§4-8) שָׁמַר(־) נָא šəmōr-nā → נָא שָׁמַר(־) šəmōr-nā' 〈2〉母音の直後の נָא は、強ダゲシュを取って נָא となる(⇒§3-10)。』とある。

נָא הִנֵּה について。§25-7<<練習>>和訳(8)(創12:11-13)の脚注に『(*8)注意を喚起する副詞 הִנֵּה に נָא が付いたもの。נָא はここでは一種の強め。』とある。

3. BDB. 『נָא part. of entreaty or exhortation I ... ;---1. to the impv., esp. in colloquial style, ... 4. joined to conjunctions and interjections: a. d. הִנֵּה־נָא behold, I pray, craving a favourable consideration of the fact poited to by הִנֵּה , and of the request founded upon it(with which נָא is often repeated), Gn 12:11, 』

12/17 יָדַעְתִּי yā|da' |tî

- 12:11
- 語の外観：語頭に יָ、語末が תִּי で終わっている。語頭が人称接頭辞だとすると語末が יָ□ で終わる未完了形は無い？したがって、語頭は人称接頭辞ではない？母音を見ると יָ□□□□、פָּכַדְתִּי となっている。完了形・単1 共か？
- 検索。a-a:ti- יָשַׁבְתִּי Sg.1c. 1st Alef Qal Affix 等がある。
- 教科書を確認する。
 1. יָדַעְתִּי について。§16-5<<練習>>和訳注に『(*1) יָדַעְתִּי (יָדַע 「知る」の完了形単1) は現在に訳す(⇒§18-6③)。』とある。
 2. 完了形について。§18-6 完了形の意味(⇒§21-4)には『①既に完了した事柄や過去の叙述 :שָׁמַח קִבַּרְתִּי אֶת־לֵאָה: そこに私はレアを葬った。②未来の出来事(話者の意識の中では既に完了したものとして、また、預言の成就や確実な約束など、間違いなく実現することと

して活写する) : לְזַרְעֶךָ נָתַתִּי אֶת־הָאָרֶץ הַזֹּאת : あなたの子孫にこの地を与える。

(創 15:18) 。③次のような完了形は、「た」形よりも「る」形で訳す方がよい場合がある :

- i. (a)状態動詞や心的状態を表す動詞 (完了の結果としての現在の状態) : יָדַע : 知った→知っている。 : יָדַעְתֶּם אֵת אֲשֶׁר־יָשְׁבְנוּ בְּאֶרֶץ מִצְרַיִם : あなた方は我々がエジプトに住んでいたことを知っている。(申 29:15) 。
- ii. (b)神の言葉を伝達する慣用表現などで : כֹּה אָמַר יְהוָה 主はこのように言われる/言っておられる。④主に詩文、韻文で、長時間的な事柄 (一般的心理、経験的事実) の叙述 : 』がある。

5. BDB. 『 יָדַע vb. know,;---1. a. know, learn to know, good and evil ; esp. sq. cl. Gn 12:11(J) I know that thou art a woman fo fair appearance, 22:12』

13/17 כִּי kî

1. 12:10, 12:11, 12:12, 12:14, 12:18
2. 語の外観 : この語の前の語が יָדַעְתִּי で、この כִּי から文は始まる? וַיְהִי 構文は?

14/17 אִשָּׁה 'iš|šāh

1. 12:11
2. 語の外観 : 語尾に הָּ がある。女性名詞?
3. 教科書を確認する。教科書の複数個所で記載がある。§9 注意すべき名詞の複数形・セゴル名詞・双数形・疑問辞 הֲ、§ 9-1 不規則な複数形を持つ名詞に『 (c)性とは逆の複数語尾を取り、語幹の形も予測できないもの(少数) : 単数 אִשָּׁה 'iš|šāh [女] 女性、妻→複数 נָשִׁים nā|šîm 』があり、§14-1 ニスマフ形の形が予測できない名詞に『 אִשָּׁה → אִשָּׁת 女、妻』等がある。
4. BDB. 『 אִשָּׁה n.f. woman, wife, female;---1. woman Gn 3:1, ..., 12:11+; 』

15/17 יַפֶּת־ yə|pāt

1. 12:11, (12:14)
2. 語の外観 : アクセントがない。語頭に יַ、語尾が ת־ で終わりマケフで繋がれている。この語の後にある מַרְאֵה とマケフで繋がれている。アクセントは語末にある。マケフで繋がれた語群は一語のように扱われるのでこの יַפֶּת־ の語頭 יַ の母音は変化している? 元の語は יָפֶתְ かもしれ

ない。

3. 索引

4. 教科書で確認する。

1. マケフについて、

- i. §2-4 の注<1>に『マケフで繋がれた語句は音声上一語のように扱われ、一息に読む。(⇒ §4-8)』とある。§4-8 マケフに『マケフでつながれた語群は一まとまりの単位として音読される。主アクセントはマケフでつながれた語群中の最後の語に移り、マケフの前の語には母音変化 $\bar{a} \rightarrow a$, $\bar{e} \rightarrow e$, $\bar{o} \rightarrow o$ (⇒§4-2②) が生じることがある。』とある。
- ii. §4-2② には『語形変化の過程で、アクセントが移動したり音節構造が変わると、しばしば母音変化が生じる。変化する母音は \bar{a} , \bar{e} , \bar{o} の三つで、それぞれ次のように変化する(条件によっては、下記の矢印とは逆向きの変化もある)。(a) $\bar{a} \rightarrow a$ (→弱化する場合は、 $\bar{a} \rightarrow \bar{a}$ (シュヴァ) 又は複合シュヴァ)』とある。

2. **יָפָה** について、§8-3 形容詞の女性形に『形容詞の女性形は男性形に上記の女性語尾 **יָפָה**、又は **ת** (少数) を付す。 **טוֹב** $tôb$ よい → **טוֹבָה** $tôbâh$ 、**יָפֵה** $yāpēh$ 美しい → **יָפָה** $yāpāh$ (男性形 **יָפֵה** がのものは母音を **יָפָה** に変えるだけでよい。』とある。また、

3. §14-3 形容詞をニスマフとするスミフートに『 **יוֹסֵף יָפֵה-תָּאֵר** ヨセフは姿 (**תָּאֵר** ソメフ) が/において美しい (**יָפֵה** は **יָפָה** のニスマフ) この文で、形容詞をニスマフとするスミフートは、ソメフとなる名詞が<着目する部分>を、ニスマフとなる形容詞が<その性質、属性>を表す。[類例] : **אַתָּה יָפֵה-מְרֵאָה אַתָּה** あなたは見目 (**מְרֵאָה**) うるわしい (**יָפֵה** は **יָפָה** [女] のニスマフ) 女性だ。』がある。

5. BDB. 『+ **יָפָה** adj. fair, beautiful; --m. abs. **יָפָה** 2 S 14:25+4t.; ... ; f. **יָפָה** 12:14+14t.; cstr. **יָפָה** ; ; --fair, beautiful, as attribute of woman; oft. cstr. **יָפֵה-מְרֵאָה Gn 12:11, ...** 』

16/17 **מְרֵאָה** mar|'eh

1. 12:11

2. 語の外観：アクセントは語末にある。前の語とマケフでつながれている。名詞類？語頭の **מ** が少し気になる？索引を見る。

3. 索引。ma:e. מְנַלֵּה Sg.m. 3rd He Hifil Participle がある。מְ で始まる語はすべてヒフィル形・分詞になっている。
4. 教科書を確認する。以下はこの語が分詞と考えたときのコメントです。
1. ヒフィル形について。§36 ヒフィル形 (1)、§36-5 分詞に『未完了形の語幹に接頭辞-מְ を付けたもの。ヒフィル形の標識-הּ は現れない。』がある。また、用法については、
 2. §12-3 能動分詞の用法に『①述語として (形容詞と同様、主語の性、数に一致する) -(a)単なる現在、(b)進行、継続 (「～している」)、(c)近未来 (「～しようとしている」) を表す。
: כָּל הַנְּהָרִים הַלְּכִים אֶל-הַיָּם: 全ての川は海へ向かう。②名詞を修飾する (形容詞と同様、名詞の性、数、及び冠詞の有無に一致する) : הָעָם הַיֹּשֵׁב בְּאֶרֶץ その地に住んでいる民 cf. : יֹשֵׁב בְּאֶרֶץ その民はその地に住んでいる。③名詞として (完全に名詞化したものもある) : רֵעָה 敵 ④他動詞の場合は目的語を取ること可 : אֶת-הַצֹּאן 羊を飼っている (人)』とある。また、受動分詞の用法について、§12-5 受動分詞の用法に『①述語として「～され(てい)る」 (主語の性、数に一致する) : יוֹסֵף אֲסוּר ヨセフはエジプトで監禁されている。②名詞を修飾する (名詞の性、数、及び冠詞の有無に一致する) : הָעִיר עֲזוּבָה: (その) 見捨てられた町 cf. : הָעִיר עֲזוּבָה: その町は見捨てられている。③能動分詞と同様、名詞として : כָּתוּב 書かれたもの、記録』等がある。これらから、
 3. 分詞の用法は『①述語、②形容詞、③名詞、④他動詞の場合は目的語を取ることもある。』となる。あるいは、
 4. 「言葉と発想」の中では、分詞句について『分詞は元々、動詞とそれに続く部分を一括して形容詞句にする装置だった。』とあり、用例として『She met a man carrying a big sack.』とある。
5. BDB. 『מְרֹאֵה 102 n.m. ... sight, appearance, vision; --- מְ abs. Gn 12:11+; ... ;---1. Psalm a. sight, phenomenon, spectacle b. appearance : Gn 2:9(J) desirable in appearance, ...; appearance of man (or woman), ... ; fem. יִפְתָּמִּי: (אֲשָׁה) Gn 12:11(J), ...』、動詞 מְרֹאֵה には 12:11 の引用は無い『מְרֹאֵה vb. see ... ;Qal Hiph. ; Pt. מְרֹאֵה Ex 25:9, Ez 40:4; ---1. a. cause one to see something, shew:』

1. 12:11, (12:13)
2. 語の外観: 文の終わりで母音が休止形になっているか? 単音節語等は教科書を見るにかぎります。
(;^_ ^A。
3. 教科書を見る。§45 変化表【G】人称代名詞(カッコ内は休止形)に『独立形・単2女(תָּא) תָּא』がある。
4. BDB. 『תָּא, תָּא pron. 2 s.f. thou (fem.) ...』

まとめ

以下の意味だと思っています。知っていますので(;^_ ^A。

彼が、エジプトに来ることが、近づいた頃のこと。彼は、サラ・彼の妻 (この2語を繋げているわけは分かりません) に向かって、言った。 תָּא תָּא 間投詞! もう、どうしたらいいのか! 私は知っている (כִּי 以下のことを)。女性・きれい・見た目・あなた (この4つの語の関係は曖昧です(;^_ ^A。))。